

# 革マル派による編集室乱入と物品の略奪を弾劾する

## 京都大学新聞社

去る九月二十二日晨、完全武装の革マル派二十名が、京都大学新聞社の活動拠点である編集室に乱入し、居あわせた本社事務職員Aさんに対し「九月十四日の二人の虐殺の責任をとれ」「新聞社の事務員でも責任は免れないぞ」と威嚇し、更に編集部の資料等を盗み出し逃亡した。この日朝、革マル派は自派が何ら責任ある運動を開いていない京都大学に武裝情宣に登場、教養部ストの諸君の彈劾の前に退散するや、やくもに西部構内の本社編集室を襲つたものである。

そして、京大新聞読者による革マル派への抗議がなされるや、あわてて、「編集部を絶対に許さない」という捨てぜりふを残し、手あたり次第に資料を持って逃げ出したのである。

右の事態について、われわれ京都大学新聞社は、全ての京都大学の学生、教職員、そして全国の読者、及び共に闘う大衆団体に対し、次の見解を明らかにし、同時に、革共同革マル派、マル学同革マル派に対して、自己批判と篡奪物品の速かな返還を要求する。

一、言うところの「九月十四日の……」とは、十四日の深夜、翌日のミッドウェー横須賀母港化阻止闘争の準備のために神奈川大学に泊りこんでいた反帝学評の部隊に対し、革マル派二百名が夜襲をかけた際、その戦闘の中で革マル派數人が死亡した事態と思われる。そのことでわれわれが責任に問われるなど全くもって不当な言いがかりに過ぎない。また彼らがどう弁明しようか、二十一日の革マル派による編集室への襲撃は、一切の修飾を排していえば、政治党派による大衆運動への暴力的威嚇、脅迫行為であり、しかもファシストや其スターリニスト同様の手段を選ばぬ言論の妨害と封殺を意図している。

一、われわれ京都大学新聞社は繰り返し明らかにしているように自らの活動の論理を次のように構築している。即ち、学生新聞とは、(1)当該の学園・地域における大衆運動が、その運動内部に領有する社会的・階級的な交通手段であり、(2)大衆運動の内外への発展を

獲得する武器である。われわれ編集員は、従つて、この大衆的に領有された学生新聞製作の任務を分掌して抱っているものである。

また、編集部は、他の大衆運動諸団体との様々な形態での共闘や相互批判を一貫して追求し真摯な努力を重ねてきた。更に、われわれに対するあらゆる正当な批判に対して、譲ることのできない原則として常に相互通報的な対応を堅持して来た。

そして、学生新聞がそれを領有する大衆運動の発展を賭けて、今月の階級闘争、学生運動、虚びられた諸階層の社会運動の中でのかなる読者を対象とし、いかなる領域を編集領域とするかに對する追求においても格段の努力をはらって来た。ましてや、われわれは編集方針を特定の政治団体や他の運動組織に依存・從属性のあることは全くありえない。

一、われわれの活動が以上の諸点に貫かれているとき、今回の革マル派の行為は決して許されるものではない。即ち、革マル派のわれわれに対する行為の中に是、自立的大衆運動に対する政治党派としての態度のかけらも無いばかりか、その行為は薄っばらなイデオロギーをもつて「党派」を自称し、日々血のにじむような闘いを展開している人々の上に君臨せんとするものである。

自身の思想構造に似せて他も「そうありなん」と、革マル派は全くの大衆団体はどちらの立場のイデオロギーの下に同心円的に從属し、「大衆団体」は便宜的看板一仮面でしかないと思ふ。だがしかし、そうした小ぢんまりした赤色サーカルとは全く異なり、われわれの活動は学生・労働者大衆の日々の生きさま、豊富な大衆運動の只中にその原則を立て、こうした勢力の現実的な力によってわれわれは支えられているのだ。

一、われわれは次のことを知っている、早大をセクト主義的に一元支配し、一切の大衆運動を当局と一緒にとなつて暴力的に圧殺してきた革マル派が、川口大三郎君の虐殺によってその醜悪な本質を満天下に曝け出たといふことである。革マル派は、自らの生一死をかかれた活動の中、少なくとも闘うものとして歴史に責任を持とうとするのであれば、自らのなして行為にあらためて表明する。熱烈なる連帯を！

一、われわれは次のことを知っている、早大をセクト主義的に一元支配し、一切の大衆運動を当局と一緒にとなつて暴力的に圧殺してきた革マル派が、川口大三郎君の虐殺によってその醜悪な本質を満天下に曝け出たといふことである。革マル派は、自らの生一死をかかれた活動の中、少なくとも闘うものとして歴史に責任を持とうとするのであれば、自らのなして行為にあらためて表明する。熱烈なる連帯を！

一、われわれは次のことを知っている、早大をセクト主義的に一元支配し、一切の大衆運動を当局と一緒にとなつて暴力的に圧殺してきた革マル派が、川口大三郎君の虐殺によってその醜悪な本質を満天下に曝け出たといふことである。革マル派は、自らの生一死をかかれた活動の中、少なくとも闘うものとして歴史に責任を持とうとするのであれば、自らのなして行為にあらためて表明する。熱烈なる連帯を！

一、われわれは次のことを知っている、早大をセクト主義的に一元支配し、一切の大衆運動を当局と一緒にとなつて暴力的に圧殺してきた革マル派が、川口大三郎君の虐殺によってその醜悪な本質を満天下に曝け出たといふことである。革マル派は、自らの生一死をかかれた活動の中、少なくとも闘うものとして歴史に責任を持とうとするのであれば、自らのなして行為にあらためて表明する。熱烈なる連帯を！

ていた。これに對し革マル派は早大の先進的な学生に

対し、テロ・リンチの日常的な全面化を行い、あれこれのレッテル張りによってこの暴虐を単なる党派抗争に見せかけ隠蔽しようとしたこと。それにも失敗するや、それが、諸階級・諸階層の社會性の亀裂と相互のせめ合いである以上、むしろ必然である。だがしかし、全ての人々の前にその論争点を明らかにし、その止場と大衆的前進を目指してこそ意義あるものであつて、

他党派や他の大衆運動の単純な抹殺のみを意図するためにする党派闘争は決定的に反階級的である。

自らの運動を阻害する者に對しても、それが敵権力やその手先を攻撃する努力を欠く態度での反対・彈劾あまります。革命的破壊は決定的に誤った行為である。われわれの活動に對して、何ら批判することなく、ただ単に物理的暴力を駆使して妨害するなどというのは、すくな

山差別裁判糾弾闘争に全力を傾注して闘っていた。しかし、川口君はその同じ活動の故をもって、その闘いの只中で殺されたのだ。この恐るべき事態の本質を明ら

かにし、革マル派の責任を追及せんとするのは、大衆差別者井波裁判長の退官直前で全く予断を許さない狭い

運動を、とりわけ部落解放運動を推進せんとする者のオロギーをもつて「党派」を自称し、日々血のにじむ

ような闘いを展開している人々の上に君臨せんとするものである。

以上の立場において、われわれは革共同・革マル派、マル学同・革マル派に對して

①九月二十二日編集室乱入と物品略奪の自己批判

②略奪した物品の即時返還

を要求するものである。

一、われわれは次のことを知っている、早大をセクト主義的に一元支配し、一切の大衆運動を当局と一緒にとなつて暴力的に圧殺してきた革マル派が、川口大三郎君の虐殺によってその醜悪な本質を満天下に曝け出たといふことである。革マル派は、自らの生一死をかかれた活動の中、少なくとも闘うものとして歴史に責任を持とうとするのであれば、自らのなして行為にあらためて表明する。熱烈なる連帯を！

一、われわれは次のことを知っている、早大をセクト主義的に一元支配し、一切の大衆運動を当局と一緒にとなつて暴力的に圧殺してきた革マル派が、川口大三郎君の虐殺によってその醜悪な本質を満天下に曝け出たといふことである。革マル派は、自らの生一死をかかれた活動の中、少なくとも闘うものとして歴史に責任を持とうとするのであれば、自らのなして行為にあらためて表明する。熱烈なる連帯を！

一、われわれは次のことを知っている、早大をセクト主義的に一元支配し、一切の大衆運動を当局と一緒にとなつて暴力的に圧殺してきた革マル派が、川口大三郎君の虐殺によってその醜悪な本質を満天下に曝け出たといふことである。革マル派は、自らの生一死をかかれた活動の中、少なくとも闘うものとして歴史に責任を持とうとするのであれば、自らのなして行為にあらためて表明する。熱烈なる連帯を！

一、われわれは次のことを知っている、早大をセクト主義的に一元支配し、一切の大衆運動を当局と一緒にとなつて暴力的に圧殺してきた革マル派が、川口大三郎君の虐殺によってその醜悪な本質を満天下に曝け出たといふことである。革マル派は、自らの生一死をかかれた活動の中、少なくとも闘うものとして歴史に責任を持とうとするのであれば、自らのなして行為にあらためて表明する。熱烈なる連帯を！

一、われわれは次のことを知っている、早大をセクト主義的に一元支配し、一切の大衆運動を当局と一緒にとなつて暴力的に圧殺してきた革マル派が、川口大三郎君の虐殺によってその醜悪な本質を満天下に曝け出たといふことである。革マル派は、自らの生一死をかかれた活動の中、少なくとも闘うものとして歴史に責任を持とうとするのであれば、自らのなして行為にあらためて表明する。熱烈なる連帯を！

(連絡先：京都市左京区吉田 京大構内  
TEL ○七五(七六)二〇五四)

一九七三年十月一日